

2017年度

# テクニカルアナリスト国際資格 第2次通信教育講座のご案内

現状認識は適切か？

予測と期待を混同していないか？

どちらのシグナルが正しい？

模範解答でプロの分析手順を学ぶ  
ブラッシュアップ講座で一流TAの解説を聴く  
WEB動画で講座を好きな時に視聴

受講申込締切:2017年3月17日(金)

開講期間:2017年4月～8月(5カ月)

## ■ テクニカルアナリスト資格について

テクニカルアナリスト資格には第1次資格・第2次資格・第3次資格の3段階があります。この案内は、第2次資格取得のために必要な「第2次通信教育講座」に関するものです。当講座では証券投資理論やテクニカル分析の実践的な使い方を学び、それを文章で表現する力を養います。

受講修了者には、第2次資格試験の受験資格が与えられ、試験に合格し登録すると、国際テクニカルアナリスト連盟 (IFTA、International Federation of Technical Analysis、本部アメリカ合衆国) より、右図のような国際資格の英文認定書が授与されます。



## ■ 第2次通信教育講座の募集概要

- ① 受講資格：2017年3月31日現在のCMTA®資格保有者で当協会会員である者
- ② 募集締切：2017年3月17日(金)
- ③ 開講期間：2017年4月～8月
- ④ 受講料：54,000円(税込) ※再受講料は32,400円(税込)。募集締切日までにお振込みください。
- ⑤ 申込：原則として、当協会ホームページよりインターネットでお申込みください。
- ⑥ 振込先：三菱東京UFJ銀行 日本橋支店 普通預金 NO.2017789  
特定非営利活動法人 日本テクニカルアナリスト協会  
トクヒニホンテクニカルアナリストキョウカイ  
※振込手数料は申込者負担となります。
- ⑦ 中途解約：受講者が、やむをえない事由により受講を辞退した場合の取り扱いは以下の通りです。
  - a. 教材等発送前の申出は全額返還します。
  - b. 教材等発送後の申出は当協会の規程に基づき返還します。

## ■ 第2次通信教育講座の概要

第2次通信教育講座の受講期間は、4月～8月の5カ月間です。練習問題は、第1次通信教育講座とは異なり、すべて手書きの小論文形式で、毎月1回、計5回出題されます。これは、第2次資格が、テクニカル分析手法を用いて相場の現状把握や投資判断が適切に行い、マーケット・レポートが書けることを到達目標としているためです。本番の試験が小論文形式であるため、練習問題も試験に合わせています。

※すべての練習問題の提出が受験資格の必須条件となります。

## ■ 資格制度の概要

		第1次資格 CMTA <sup>®</sup>	第2次資格 CFTe <sup>®</sup>	第3次資格 MFTA <sup>®</sup>
通信教育	受講資格	なし	CMTA <sup>®</sup> 資格保有者かつ 当協会会員	
	募集日時	4~5月(夏期) 10~11月(冬期)	2月~3月	
	受講期間	6~10月(夏期) 12~4月(冬期)	4月~8月	
	練習問題	全5回	全5回	
	受講料	54,000円(税込) *2017年1月現在	54,000円(税込) *2017年1月現在	
資格認定試験	受験資格	上記講座の受講修了者 ( <b>全ての答案を提出</b> ) ( <b>初回受講後3年以内</b> )	CMTA <sup>®</sup> 資格保有者かつ 上記講座の受講修了者 ( <b>同左</b> )	CFTe <sup>®</sup> 資格保有者かつ 当協会会員
	試験形式	選択式 120分	小論文形式 180分	概要提出と本論文提出
	試験時期	毎年2回 1月と7月	毎年1回 11月	毎年2回 4月と9月
	受験料	10,800円(税込) *2017年1月現在	21,600円(税込) *2017年1月現在	950米ドル *2017年1月現在
	資格名	日本テクニカルアナリスト協会 認定テクニカルアナリスト <b>略称 CMTA<sup>®</sup></b> (Certified Member of The Nippon Technical Analysts Association) NTAA1,958名 (2016年11月現在)	国際テクニカルアナリスト連盟 認定テクニカルアナリスト <b>略称 CFTe<sup>®</sup></b> (Certified Financial Technician) NTAA 541名 (2016年11月現在)	国際テクニカルアナリスト連盟 検定テクニカルアナリスト <b>略称 MFTA<sup>®</sup></b> (Master of Financial Technical Analysis) 116名うちNTAA 51名 (2016年11月現在)
到達目標	テクニカル分析に関する 基本的な知識および 使用方法を習得している	テクニカル分析を用いた 適切な現状判断と投資判断が でき、マーケット・レポートが 作成できる	国際テクニカルアナリスト 連盟の知識データベースに 新たな視点を加える	
主な受講者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金融機関職員(営業、調査、ファンドマネージャー、ディーラー他)</li> <li>・調査情報機関職員 ・マスコミ関係者 ・教育関係者</li> <li>・学生 ・テクニカル分析に興味のある方 ・個人投資家他</li> </ul>			

## ■ テクニカル分析について

投資対象の価格の変化は、投資家心理の変化を背景として投資対象の需給が変化することによって生じると考えられています。そこで、価格の変化や売買高の変化を分析することによって、その背景にある投資家の判断の変化を探り、ひいては投資対象の将来の価格変化をも探ろうとするのが「テクニカル分析」です。また、価格は悲観と楽観の間で推移しますが、いずれのサイドにも行き過ぎてしまうのが常で、この行き過ぎを捉えようという意図で考案された手法もあります。

投資対象の本来的価値を探り、それと市場価格とを比較するのが「ファンダメンタル分析」ですが、「ファンダメンタル分析」では「何を買えば良いのか」を知ることができますが、「いつ売買すれば良いのか」についてはシグナルを出しません。一方、「テクニカル分析」では、「いつ売買すれば良いのか」というシグナルは出ますが、「何を売買すれば良いのか」については知ることができません。

つまり、「ファンダメンタル分析」と「テクニカル分析」を組み合わせることによって、初めて「何を売買すれば良いのか」「いつ売買すれば良いのか」が分かることとなります。

リスクをコントロールしながら適切な投資を行うには、「ファンダメンタル分析」も「テクニカル分析」も欠かすことができないといえるでしょう。

**日本テクニカルアナリスト協会 (NTAA)** は、国際テクニカルアナリスト連盟 (IFTA) の創立に関与し最初から加盟している3協会の1つで、テクニカル分析の通信教育を通じて適切な知識を持つ有資格者の増大に努めると共に、セミナー等を開催して広く「テクニカル分析」の普及啓発活動を行っています。



国際テクニカルアナリスト連盟 (IFTA) 加盟  
**日本テクニカルアナリスト協会**<sup>®</sup>  
特定非営利活動法人 (NPO 法人)

〒103-0026

東京都中央区日本橋兜町3-3

TEL: 03-5847-2231 平日9:00~17:00

URL: <http://www.ntaa.or.jp>

E-Mail: [office@ntaa.or.jp](mailto:office@ntaa.or.jp)

